

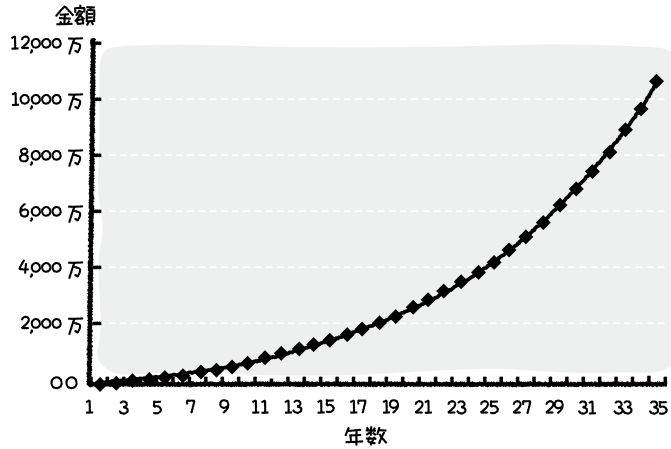
投資^{とっし}は、ほったらかすほどうまくいく

「ほったからしで1億円の資産を生む」なんてありえないと、みなさんは思うことでしょう。

しかし、5000万円の住宅ローンを組むと、借り入れ金利にもよりますが、30年間で支払う総額は1億円近くになるように、決して1億円という数字はみなさんの生活からかけ離れた夢物語の数字ではありません。毎月数万円の住宅ローンでも30年で返済すると1億円近く支払うことになるのでしたら、反対に毎月数万円を長期で投資すれば大きな資産になるとおわかりになると思います。

私は、大学卒業後、山一証券、メリルリンチ日本証券にて個人富裕層向けのファイナンシャルコンサルタントを経験した後、現在は独立系ファイナンシャルプランナーとして、日々お客様の相談を受けています。

■毎月の5万円が1億円に！

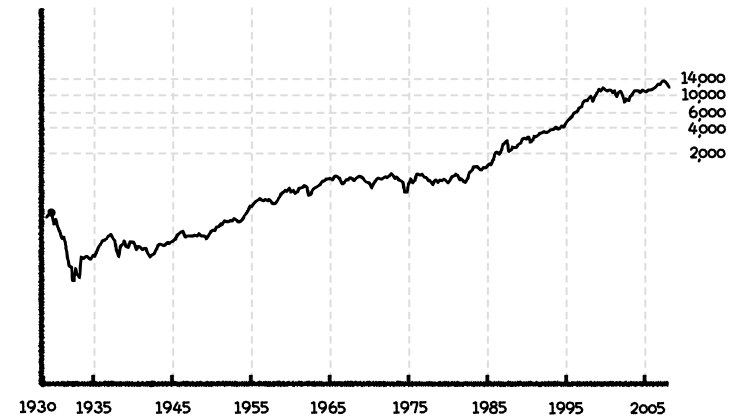


1989年の最高値からの下落ばかりが目
 があってしましますが、日経平均が最初に
 登場した1949年5月16日の日経平均は
 176円、同日のNYダウは175ドル
 とほぼ同じ水準でした。そこから、約60年
 経った現在、日経平均が13500円、N
 Yダウが12000ドルとほぼ同じような
 数値になっているのも驚きです。

このように長期的にはほったらかしが
 いとはわかっていても、どうしてできな
 いのでしょうか？

上の図は毎月5万円を年利8%の複利で
 運用した場合、34年間で1億円に到達する

■NYダウのチャート



そこで感じるのが、ほったらかしにして
 いる人ほど、儲かっている、毎日の値動き
 や小難しい投資理論を中途半端に知ってい
 る人ほど損をしているという事実です。

投資というのはもっとシンプルなもの
 であり、そのシンプルさに気づいた人が成功
 しています。

上の図は1929年からのNYダウの
 チャートですが、このチャートだけを見て
 いたら、株式というのは、単純に一度買っ
 たらほったらかしにしておけばいいように
 思いますが、大半の人ができません。

日本株に関しても、私たちはどうしても

という図です。どうして、毎月の5万円が1億円になるのか不思議ですよ。これがわかるようになるには、複利で運用する大切さをきちんと理解する必要があります。本書の中には、複利の効果と、複利効果をきちんと享受するための方法、具体的な投資信託の選び方が書かれています。

そして、トレンドとして覚えておかなければならないのが、日本が成熟国になったという事です。

日本が成熟国になった際の投資方法は、海外に投資をしていくことです。これは日本の企業の行動を見てもわかると思います。製造業の海外売上高比率は5割に迫ろうとしていますし、内需型産業と言われる化粧品や資生堂なども、海外の売上高比率を40%まで持っていこうとしています。私が昨年の冬に上海に行ったとき、資生堂の社員の方が大量に上海の語学学校に派遣されており、必死で中国語を勉強していました。

このように、日本の企業は既に海外に目を向け、手を打っています。日本の企業の中でも将来伸びる会社と伸びない会社の違いというのは、いかに海外戦略をうまくやるか

にかかっていると思いますが、これは個人投資家も同じです。日本株ばかりにこだわる必要は全くありません。いかにうまく資産を海外に振り分けることができるのかで運用利回りは変わってきます。

そして最後に、株主になる重要性を理解する必要があります。

先日、米経済紙フォーブスが発表した2008年版世界長者番付で、ウォーレン・巴菲特氏がマイクロソフトの創業者ビル・ゲイツ氏を抜いて1位になりました。その総資産は6兆2000億円にもなります。ウォーレン・巴菲特氏はビル・ゲイツ氏や本田宗一郎氏のように、起業をして、その創業者利益を得たわけではありません。元手10万ドルから始め、それを割安で有望な企業に投資をすることによって6兆円もの資産を築きました。

今までは銀行にお金を預けていれば、銀行が上手にお金を運用してくれましたが、現在では皆さん自身が投資先を選んで投資をしなければなりません。違う言い方をすると、今までは給料をもらい銀行に預けていれば何も将来に対して心配することはな

かったですが、これからはそれだけでは心もとなく、やはり、給料から少しでも投資に回さなければいけません。

そして、それを後押しするように企業というのはどんどん株主の方を見ています。最近の株主総会を見ても、いままでのような短時間で終わるシャンシャン総会ではなく、きちんと経営者が株主によって評価され、場合によっては再任を株主によって拒否されるという事態まで起こっています。よって、経営者はきちんと株主に報いる経営をしなければいけないということで、配当金や自社株買いを増加させています。

2008年3月期の東証一部企業の配当総額は約6兆7000億円となり、5年連続で過去最高を更新しています。つまり、従業員の給料は増やさないが、株主への配当は増やしているのです。よって私たちは株式を買ったり、投資信託を購入することによって株主になる必要があります。

また本書では、投資のみならず自己投資についても書いています。

私はいつも「投資というのは自転車という補助輪であり、メインの車輪はみなさんの本業です」と言っています。自転車というのは補助輪だけでは走ることができません。まず動力となるのはみなさんの本業であり、それを補助するのが投資です。ぜひ投資のことを学ぶと同時に、本業での付加価値を増やすことにも力を入れていただければと思います。

そして、この長期投資の実践と本業の付加価値をあげることが、豊かな人生を送る一番の方法であるということを書きで説明していきたいと思えます。